

○13番(伊藤文博君)

新政会、伊藤文博です。

今回は、新年度の重点施策3項目から要点を絞って市長の方針を伺います。項目も多く、総務文教常任委員会の所管部分も多いので、大枠を問うことを中心に質問をいたします。

1、安全安心、元気なまちづくりについてであります。

- (1) 東日本大震災は、史上最大規模の地震と巨大津波による原子力災害を併発した広域に及ぶ複合災害であり、長期にわたり国内全体に様々な悪影響を与えています。被災地の状況を教訓として、防災対策だけではない社会保障上の問題点を含めて、あらゆる情報を糸魚川市の例状に当てはめて、検討すべきものは全てそ上に載せ、即時対応すべきこと、時間をかけて対応できること、慎重な検討を要することなどに整理し、取り組まなければならなりません。検討状況はいかがでしょうか。
- (2) 一般廃棄物処理、最終処分場の長期的展望に立った総合的な計画策定と実行により、排出量削減、リサイクル率向上、最終処分場の確保と環境の保全を図らなければならないが取り組み状況を伺います。

2、心豊かな人を育むまちづくりについてであります。

- (1) 「日本一の子どもを育てる」とは「日本一の子育て環境づくり」であると考えます。学校、家庭、地域が一体となった日本一の子育て・教育環境の整備への取り組みはいかがですか。
- (2) 子ども一貫教育方針の推進による豊かな心と学力向上を図るため、教職員の人材確保と資質向上を図り、必要な教員の加配を行って「一人の子どもを複数で育てる」仕組みを構築しなければなりません。どう考えますか。
- (3) 健全な精神と身体を養うため、「栽培」「料理」「共食」による地域に根ざした食育教育の充実をどう図りますか。
- (4) 保育料の軽減、学童保育(放課後児童クラブ)の更なる充実等による家庭の負担軽減など、子育て支援策強化をどう考えますか。
- (5) 課題として残された青海地域の公民館体制が機能的に構築されるよう十分なシミュレーションを行って、その結果を市民に示した理解の促進と、実行後の継続的改善にどう取り組みますか。

3、新幹線開業に向けたまちづくりについてであります。

- (1) ジオパーク戦略には外からの目線による分かりやすく明確な「核」を設定した「見せ方」「楽しませ方」を意識した実行プランが必要であります。必要な人員配置、市民を含めた人材の育成、プランの推進と進行管理のためのシステム構築、確実かつ有効な戦略実行をどう図りますか。
- (2) 新幹線。在来線駅舎問題、駅周辺整備に関して、将来の地域活性化につながる選択をどう図りますか。
- (3) 新幹線開業に伴う並行在来線の健全経営と利便性の向上を図らなければなりません。利便性の高いダイヤ編成、糸魚川一新潟間の優等列車確保、新駅設置など、課題の早期解決をどう図りますか。

(4) 市民生活の向上と交流人口拡大、防災力の向上につながる安全性と利便性の高い交通ネットワークの完成をどう図りますか。

(5) 「企業支援室」を強化し、市内既存企業支援強化、地域の産業構造を反映した施策の推進、若者就労定住対策、財政力向上による地域カアアップをどう図るのでしょうか。

1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長(米田 徹君)

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、複合的な災害から市民の生命、財産を守っていくために、地域の実情や課題を再確認し、それぞれの地域に合った対策を構築していく必要があると考えております。

このため防災会議や部内協議において、防災面も含めたこれからのまちづくりについて検討し、できることから対策を進めているところであります。

2点目につきましては、23年3月に策定いたしましたごみ処理基本計画の中で、ごみの減量化等の目標を定め、そのための施策として生ごみ処理機器の購入補助、ごみ有料化の検討などを行い、目標達成に向けて取り組んでまいります。

また、中間処理施設の整備や最終処分場の方法につきましては、ごみ処理施設のあり方検討委員会の中で検討いたしております。

2番目の心豊かな人を育むまちづくりのご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願い申し上げます。

3番目の1点目につきましては、全庁的な取り組みとして全職員の意識向上と人材育成を図るとともに、出前講座、ガイド養成、検定などの効果的な実施により、広く市民の皆様の人材育成にも努めてまいります。

また、プランの推進、進行管理につきましては、ジオパーク戦略プロジェクトで対応してまいりたいと考えております。

2点目につきましては、ジオパークを核とした交流人口の拡大による地域活性化を図る中で、駅周辺を結節点として位置づけ、整備を進めてまいります。

3点目につきましては、ご指摘の課題はいずれも重要なポイントであり、このたびの並行在来線への国の支援を考慮した経営計画や運行の方針を、早急に県及び並行在来線株式会社へ要請してまいります。

4点目につきましては、北陸新幹線の開業と時期を合わせて国道や県道、都市計画街路網の整備を

推進するとともに、鉄道やバスなどの公共交通機関をリンクさせてまいりたいと考えております。

5点目につきましては、企業ニーズの把握と、さらなるワンストップサービスの強化による企業支援体制の向上が重要と考えており、関係職員のスキルアップなどにより企業支援室の能力強化に努めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長(竹田正光君)

伊藤議員のご質問にお答えします。

2番目の1点目につきましては、実践化に向けた各組織の具体的な取り組みを促すための理解啓発活動と取り組みの支援、園・学校での学習指導モデルカリキュラムと副読本の作成の2点に重点的に取り組んでおります。

地域や園、学校、家庭が連携した組織的活動と実践化への動きが始まっております。

2点目につきましては、若手教職員の指導力向上のための継続的指導や、県外研修補助制度などを実施しております。

また、児童生徒の学習環境整備のため教育補助員の増員による指導の充実、学校支援地域本部事業の拡大など、教育環境の整備を推進しております。

3点目につきましては、子どもの発達、成長にとって食育は大切であると考えます。地域とかがわりながらつくる、調理する、いただくなど、一連のつながりを体感する中で、学習する食育を推進してまいります。

4点目につきましては、これまで次世代育成支援行動計画に基づいた事業の展開や拡充を行っております。

今後とも市民ニーズの把握に努め、行動計画の見直しを行いながら子育て支援に努めてまいりたいと考えております。

5点目につきましては、移行準備期間の中で新たに設置する4地区公民館の組織及び業務内容について、地区役員と協議を重ねてまいります。

新体制移行後も、地区公民館が行う生涯学習活動や地域づくり活動などについて、公民館長会議等で検証を行い、よりよい公民館体制の構築に努めてまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

防災対策にいきます。防災対策上、東日本大震災で最も教訓としたものは何でしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

○消防長(山口 明君)

お答えいたします。

最も教訓したものは何かというご質問ですが、やはりそれぞれの地域の市民の方々、住民の方々の防災に対する認識、そこがまず最も教訓となったものであるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

その住民の認識が、今、被災地はどうであって、糸魚川はどうなのか。そして今後、どういうふうにしていかなきゃいけないのか、その辺、答えてもらえますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

○消防長(山口 明君)

市民の方々、住民の方々のご認識が被災地でどうであり、あるいはこの糸魚川でどうでありということのご質問かと思いますが、被災地のほうでは、やはり当時こういうことをしておけばよかった、あるいはこういうことを教訓としておけばよかったということが、いろいろ今論じられ、あるいは反省として挙げられている、そういうものがあると思います。なお、その中でも逆に、またそのコミュニティ、あるいは絆というものが非常に生きてると、再認識したということも出ております。

その辺を当市の中では、まず、できるところからというところで、地域の方々の出前講座等で自

主防災組織、そういう形の中で絆を深め、あるいは東日本大震災におけるそういう災害の事象をとらえながら、この地域に当てはめ、それを皆さんに認識していただいて、今後、進めていかなきゃならんということが一番の今課題になっておりますので、そういうところから、こちらのほうではできることとして進めさせていただいていることと、やはり海拔表示等々をしながら認識を深めていただくということと、まず、できることという形でさせていただきます。

なお、地域的には、そういう自主防災組織の絆を深める、あるいは地域コミュニティ、そういうものに対して深めていくことが、最も大切であると考えておりますので、それについても進めているというような形でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

じゃあハード面とソフト面を分けてちょっと聞いていきたいと思いますが、ハード面で必要な対策というのがあると思うんですよね、今現状を見て、それはどのようにとらえていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

○消防長(山口 明君)

お答えいたします。

ハード面についてどのように考えているかということですが、東日本大震災を教訓とした場合、やはり一番大きな災害の1つの事象は津波であります。それにつきましては、ハード面といたしまして津波防災、これにつきましては、今、県のほう、あるいは国のほうからの中央防災会議における防災基本計画のこの流れを受け県のほうで、今、津波に対する対策のまとめを行っているところでございますが、それを受けながら、やはりこの地域として、じゃあ防波堤、防潮堤が必要なのか、あるいはそういうものが必要なのかというものはいろいろ出てこようかと思いますが、できることとしては先ほど申し上げましたやはり避難路、あるいはそういう避難施設の確保というものが先にきますので、ハード的な形とすれば避難路というものが優先されてくるものではないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

あんまり細かいことを聞く気はないので大枠で聞きますけど、今、消防のほうと、それから施設管理をしている産業部のほうとの役割、両方の共有と連携というのが非常に大事になってくる。そこで、きょうの主眼は、やはり東日本大震災で起きているさまざまなことを、どう検証して、糸魚川市の現状に当てはめていくかということなんですけど、ハード面でのことを、産業部ではどういうふうにとらえていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

○建設課長(串橋秀樹君)

建設課としましては、道路だとか橋りょうだとかというのは被災に遭うものだと思いますけども、橋りょうや何かは古い時代からつくられたものがたくさんありまして、現在の耐震設計の基準には当てはまらないということで、仮に耐震設計をしたとしても、現在の最新の耐震基準までには達しないということになります。

それと非常に直下型の大地震が起きますと、かなり橋りょうだとか道路は被災して、本当に通行不能だとか、落橋だとかということになりますけども、これから整備するものについては、最新の耐震基準を用いて設計をしてまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

耐震化を急がなきゃいけないですよ。橋についても、順次進められていますし、市内も調査されていきますので、そのこと自体を具体的に聞く気はないんですが、考えていかなきゃいけないのは、地震が起きたときに直接的に被害を受けて、そのことによって人命が損なわれるようなもの。例えば橋もそうですよね、もし落ちれば、通行車両の問題があります。

それから地すべり指定地、地すべり危険地ですね、指定地とは言いませんが危険地。先ほど地すべりハザードマップの話もあったんですけど、やはりそういうものがつくられていったことで、本

当の意味で活用されていかなければいけない。そこで先ほど言った消防長の意識の問題と絡んでくると思うんですけど、実際の危険箇所が果たして横の連携の中で、しっかりと全市的に把握できているかどうかというところは、もう一度確認し直さなければいけないというところだと思うんですね。

災害というのは、いつ起きるかわからんわけですから、今とりあえずできることはどんどんやっていく。それから今後、このぐらいの期間の間に、こういうものを検討する。それから長期的には、これを考えていく。さっき言われた新しい橋を設計するときには、もう耐震化を十分備えたものを、これはもうちょっと先の話です。現状で短期。中期・長期ととらえたときに、ハード面ですよ、今言ってるのは、全庁的にどういう取り組みをしていきますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

○建設課長(串橋秀樹君)

全国的に今はやっているんですけども、各施設の長寿命化計画というのが、どのような施設にも国のほうからそれを打ち立てて、それに基づいて整備をしていきなさいという方向づけがなされております。それらに基づいて、今、短期。中期。長期というふうに分けて、段階的にやっていくつもりで考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

そこは長寿命化の中で言うと、そうなんですよ。だけど今、とりあえず危険箇所を拾い上げて、応急にしておかなきゃいけない対策をしていくということと、それから調査をかけてやっていく、これはもう中期計画、もしくは長期になるということですから、長寿命化計画というのは、どっちかという短期計画には今そぐわないんですね。ですから危険箇所を拾い上げていって作業も含めて、まず拾い上げなきゃだめだ。こういう対応をしますということよりも、まず、それを把握しなければいけないところから始まるという感覚でいってどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長(米田 徹君)

お答えいたします。

まず、3.11東日本大震災で我々がやはり一番感じたのは、今まで進めてきたり、今までつくってきたものが、果たしてそれでよかったかというところもあるわけでありまして。それは先ほど消防長が申し上げたとおり、今見直しをしなくちゃいけないんだらうというところが、一番やらなくちゃいけないんだらうと思っております。その辺もまだ具体的になってないもんですから、なかなかその辺が、我々糸魚川市の今つくってきたハザードマップなどが、本当にそれでよかったのかというのが、やはり一番ちょっと心配するところでありまして。

津波の問題、そして地震、そして地すべり、また、その中においても、もう一つは焼山の火砕流の問題だとか、いろいろ見直しを私はしなくちゃいけないんだらうと。また、見直しというか、再確認をしなくちゃいけないんだらうという、その作業が、一番今しなくていけないと思っておりますのでございます。それによって施設整備も出てくるんだらうと思えますし、また、それをどのように進めていくかということも出てくるんだらうと思っております。それを私は、今、急がなくちゃいけないというふうに思っている点でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

先ほどの津波の問題にしても、今この地区で想定する津波があると。この高さを想定していきま
す、今、最大限のものを想定しなきゃいけないでしょうけど、そのときにその津波を防ぐハード面
の対策がないとしたら、ソフト面に対応していかなくちゃいけないという。1つきちっとした想定を
明らかにした中で、それに対する市民の生命を守るための対策を早急に明らかにせよ。これは短期
にやらなくちゃいけない問題ですね。ハード面が整っていないからソフト面という話に、もう移っ
ちやうたわけですけど、避難誘導の問題も含めて、例えば外にいる人がどうやっ

て危険な状況を把握するのかと。

前にも言いましたけど、前に地震で津波警報が出たときにも須沢の公園で、子どもたちがずっと
サッカーしていたと、こういう状況が現にあるわけですよ。それも大分前の話、何回も言ってます
けど、そういう状況を防ぐために、起こさないために、今度はソフト面での対処をしていかなく
ちゃいけないというふうに、ソフトとハードをあわせて対応していかなくちゃいけないんです
ね。これをどう取り組んでいくかですよ、問題点を洗い出して取り組んでいくか。取り組んでい
かなくちゃいけない考え方はわかりました。みんなそう思ってるわけですよ。実際どうする
かですね、お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

○消防長(山口 明君)

お答えいたします。

もちろんソフト面・ハード面、両方とも取り合わせながら進めていく必要があります。それで以前にもお答えしておりますが、当方のほうで、このソフト面。ハード面も含んだ包括的なこととして、現在のところ約50項目を超える項目を抽出し、それを今すぐできること、それから中期的なもの、あるいは長期的なものとして分類をいたして、できることはもう員九に行っております。それから現在検討中のもの、これは全庁的な取り組みの中であっておりますので、防災面を起点とした中での話を既に進めさせていただいております。

なお、先ほど議員のほうからおっしゃいました津波に関しましては、まだ防災計画のほうを整備されていない中では、東日本大震災の10メートル、あるいは15メートルというものを意識しながらの現在のソフト対策を行う。なおかつハザードマップのほうは、3メートルということを示しておりますので、それではいけませんので先ほど申し上げました10メートル、15メートルという形でやらせていただいておりますし、そういう観点を常に東日本大震災のものをこちらのほうに入れながら分類し、やっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

取り組みは私も大体わかってるんですよね。ただ、それを市民と情報共有して、市民の意識がそうになってくれないと、本当に思っているように動いてくれないと、逃げられるものも逃げられないということなんで、そこが大きな壁だろうというふうに感じます。

いろんな問題をしっかり取り上げてもらっていると思うんですが、消防だけであってということではなくて全庁的にそれぞれの部署が、災害時の自分の部署で、所管のところで起きる問題について俎上に上げていくということが、乗せていくということが大事だろうなというふうに思いますので、お願いします。

社会保障上の問題点、災害時のですね、これはどのように把握しておられますか。福祉事務所長だろう、社会保障上の問題だから。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

○福祉事務所長(池亀郁雄君)

お答えいたします。

大きな災害になりますと、国の支援によりましての社会保障が出てまいるわけですが、当面、津波等の災害につきましては社会的な弱者、これらの支援が必要でございます。この辺につきましても救済の措置が今必要なわけですが、日ごろの訓練等もお願いしとるわけですが、生活支援、あるいは医療保健対策につきましては、これは即時対応が必要でございますので、これは国の支援をいただきながら、あるいは行政としてもかかわつていかなきゃならない。これは社会的救済措置ということで、当面急ぐ対策でございます。

あと自治会組織の編成だとか生活基盤の整備、これは災害後の話でございますので、これらにつきましても国、県の支援をいただきながら整備していかなきゃならんと、こういうのが行政課題としてあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

何回も言いますけど、個々の問題に対して具体的に細かいことを言う気はないんですが、例えば生活保護であれば被災後、生活保護が打ち切られたとか、例えば被災した売れない土地を持っているために、生活保護の対象にならなかったとか問題がある。それから多重債務の問題ですね。そして被災企業の支援とかと、いろんなことがあると思うんですね。

こういうことを私が今日言ってるのは、そういう例えば商工農林水産課の所管のところでききてくる企業支援という問題、企業が抱える多重債務の問題、個人が抱える多重債務の問題、それから生活保障の問題、こういうことをしっかり取り上げて、全庁的に検討する場を設けていく。そのことについての具体的対策は、すぐそこであるかどうかは別なんです。俎上にのせて、それをこの中でできること、国の動向をどう見ていくかということも含めてやっていってほしいということなんです。これはぜひこれから、しっかり取り組んでいただきたいと思います。

それから廃棄物処理のほうに移りますが、これも今日言いたいのは長期的な計画ですね。ごみ処理の基本計画ができましたが、10年間の長期計画であると。そして今、最終処分場のほうも、大体方向性が整ってきたというふうに聞いていますが、長期ということになると、そこが建設されて何年間利用可能で、そうするとその後、環境アセスメントから新しい処分場をつくるのに何年。

10年とかと言われてますから、そうすると、いつまた検討を始めていかなきゃいけないのかという

ようなことが、長期計画になっていくというふうに考えているんですが、これはどう考えていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

○環境生活課長(渡辺 勇君)

お答えいたします。

廃棄物最終処分場につきましては、大体今のところ15年間という形で国の交付金が認められておりますので、15年間使用できるものという大きさになろうかと思えます。ただ、実際の運用としましては、15年間というだけでは成り立ちませんので、実際は、もう少し長く使っていくというような運用方法があるかと思えます。

また、新たな最終処分場を建設するとなると、どうしても地元合意等に時間を要することから、10年以上かかるというふうに思っておりますので、新しく最終処分場をつくった段階では、なるべく長く使えるような、要は処分量をできるような、またごみ処理施設等も考えていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

私がさっき聞いたのは、そういう思いの中で見込みを立てますよね。そうすると、だけど新しい処分場に10年かかるわけだから、いつごろ検討を始めていくんだよということがないと、だめだろうということですよ。だから物すごく長いサイクルの中で、例えば15年だとしたら、10年かかるとしたら新しい処分ができてから5年後には、もう検討を始めなきゃいけないことを長期計画の中に盛り込んでいかなきゃいけないという、そういう視野に立った長期計画を立てる必要があるんじゃないかということですね。今のこの計画の中では、当然まだめどが立ってなかったら、そこまで入ってないわけですよ、それをどうしていくかということなんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

○市民部長(吉岡正史君)

昨年末、大野の一般廃棄物最終処分場、これについて新たな場所について一応地元からご承認をちょうだいいたしました。それに基づきまして、今、日本環境衛生センターにその場所での廃棄物の新しい処分場を検討といいますか、基本的な計画づくりを今お願いしております。

その中で大野の現行の下のほうに、何年分の最終処分場ができるかというのは、まだわかっておりません。これが大体明らかになった時点で、例えば今そこに20年分ぐらいもしつくれるということであれば、やはり10年ぐらい新しい処分場にはかかると言われてます。

そういった場合、なかなか今、他市の例を見ますと、別なというか、新たな場所での処分場というのを認めてもらうには、物すごく時間がかかる、あるいは認めてもらえないという実態があることから、やはりそういう大野地域での最終処分場の容量を考えて、次の計画というものをいつごろ立てなきゃならないかというのをやっていかなければならないというふうに思ってますので、今、当面は大野の一般廃棄物最終処分場を、どれぐらい使えるかというのを早急に出していただいて、その上で早急に、すぐ取り組まなければならないのか、多少時間があるのか、そういった判断をさせていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

なかなかストレートな答えにならないんであれなんですけど、要するにこれから建設していく処分場の寿命を確認した上で、いつから検討するというのも長期計画の中に盛り込んでいくということですね。そうやって答えてもらえればよかったです。

じゃあ次にきまず、時間がありませんので。

心豊かな子どもを育むまちづくりについてですが、平成23年度は実践意識の高揚と実践資料の作成に取り組んできたということですよ。何回も言ってますけど、入り口がどうもやっぱりわかりにくいんですよ。というのは、理解はできますよ。何でかという、糸魚川市の子ども一貫教育は、日本一と言ったところから始まってのわけです。そうすると、市民側はどういうふうにとるか、日本一の子どもって何というところから入るわけですね。そこがいまだに私も質問を受けることが多いんですよ。

僕の考えですが、日本一の子育て環境という、子育て環境が日本一すばらしい糸魚川市を目指すというようなことであれば、わかりやすくなってくるということです。システムづくりという言い方もこれまでしてきましたけど、糸魚川市の子育て環境は、日本一であるというところを目指すべきだと思うんですけど、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

○教育委員会こども課長(山崎光隆君)

お答えいたします。

今、伊藤議員がお話になられたように、日本一、トップの子どもを育てるという意味合いではなくて、子どもが自分の力を最大限に発揮できるような、その子どもの育っていく環境を整えていくその仕組みをつくっていく、そういうふうに我々は理解しながら取り組みをしています。ただ、それが説明が不十分なために、なかなかその辺のところ、十分に理解してもらえていないのかもしれない。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

今の話はわかるんですよ、主張は。ところが今言った説明の中に、日本一が出てこないじゃないですか。仕組みをつくると言ったんですね、その仕組みを日本一にするんだと言えば、日本一と言ったことの説明になるけど、今の説明の中に日本一が出てこないから、日本一の説明にならないんですよ。だから理解できない、市民側はわからない、何が日本一なのというところから入ってます。日本一と言っちゃってるんだからね、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

○教育委員会こども課長(山崎光隆君)

お答えいたします。

日本一の子どもを育てる、育むという意味合いには、今、伊藤議員がおっしゃったように、日本一子どもを育てるための支援を充実する、そういう取り組みを目指すという形で考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

方向性が正しくて、わかりやすくぶれない言い方、だれに聞いても同じに答えてきて、わかりやすいということが大事なんです。だから考え方があって、それをその人、その人の言葉で、違う言葉で説明したらわからない、理解できない。キャッチフレーズという言い方もありますけど、要するに、そこが理解できないと、みんなが同じ思いで取り組んでいくところにならないんですね。もう細かいことは聞きませんと言ってます、本当に聞かないです。この大枠だけの話ですから、私が今言いたいのは。どうですか、教育長。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長(竹田正光君)

お答えします。

言葉足らずだったと思います。山崎課長が答えたとおりになんですが、とにかく瞳の輝く子どもを育てたい、そういう日本一の教育環境をつくるという立場で私たちは物事を考えて動いております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

それをわかりやすく、ぶれないようにしてください。一人一人説明が違うというんじゃなくて、それを教育委員会で徹底して、そしてだれが説明しても同じで、わかりやすく説明できるようにしてもらいたいなと思います。思いがあるから、いろいろ出てきます、言葉が。足せば足すほど、わからなくなるということですからね。

それで1人の子どもを複数で育てるというのは、総務文教常任委員会で秋田県大仙市のすばらしい教育システムを見てきました。何度も一般質問や委員会で言ってますが、決して詰め込み教育ではなくて、糸魚川市が目指す学校。家庭・地域連携が見事に達成されている中で、底辺の底上げによる教育を実践して、全国で学力テストで平均点がトップクラスということまで持ち上げていってる。ぜひ行ってきてくださいよ、行って勉強してきてください。我々が伝聞で何ば言うよりも、実際に行って見てきてもらいたいですね、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長(竹田正光君)

お答えします。

行かれた総文の議員さんから、いろいろと資料を預かりながらお話も聞いておりますし、1回見てくることによって、「百聞は一見にしかず」だよということで行って話を聞いて、自分の目で確かめてくれば、はっきり見えてくるんじゃないかということも言われております。ぜひ行くように努力したいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

食育に関しても小浜市での取り組みを委員会で視察した後に、多くの議員がここで発言をする中で、担当者の方に来ていただいたりして今取り組んでいるそうですね。やはりそういうふうにつながってってもらいたいと思います。我々議員が行って見てきて声を大きくして言ってることは、無駄なことはほとんどないんですから、素直に受け入れてもらいたいと思いますね。

それから食育ですが、キッズ・キッチンを私も見学してみて、やっぱりまさにマンパワーが必要な事業ですね。今後、人を動員して、子どもたちとかかわらせていくというのは、非常にいい仕組みなんですけど、今後どう対応していくつもりですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

○教育委員会こども課長(山崎光隆君)

キッズ・キッチンでありますけど、現在、市内で23園、参加して実施をしております。やはり議員がおっしゃるように、かなり子どもたち自身の手でやってもらうというようなことですが、それを見守る、指導する職員がいっぱい要ります。今、ボランティアを中心にしながら指導員を募っているわけですが、ぜひ充実させていきながら、多くの人たちで子どもたちを指導していきたい、そんなふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

当然、予算も必要ですよ。充実していくために予算をふやして、活動を活発にしていく必要があります。教育は繰り返し、繰り返し根比べですよ。やはり吸い込んでいくというのが教育の基本です。ある意味、鍛えるというところもあります。

1人の子どもが必要な回数を経験していくと、もっともっと充実されていくということが求められていると思いますので、今後、もう11つ踏み込んだ対応ができたらなというふうに願っておりますので、お願いします。

小浜市でのキーワードは「栽培」「料理」「共食」なんです。糸魚川では、「栽培」の部分が、どうも欠けていますよね。地産地消で大和川小学校を見せてもらいましたが、地元産の生産者とかかわりながら、地元産の食材を使っているのはいいんですが、小浜市は地元産の栽培のところにかかわるんです、子どもたちが。それによって、より食の大切さを学ぶ。このことに対する取り組みはどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

○教育委員会こども課長(山崎光隆君)

子どもたちにとってはつくるところから、それからそれを調理して食べる一貫した活動、あるいは地元でとれた魚とかそういう食材を使って、それを調理していただくということから、自分の住んでいるところを理解したり、あるいは感謝の気持ちを持つたりすることで、非常に重要な教育活動だと考えております。

現在、糸魚川市内の小学校では、全小学校で何らかの野菜だとか米だとか地元の魚、地引き網体験を通じてその魚をいただくとか、何らかの形でその地域のもので栽培したものをいただいたりすることとしながら、体感する食育を行っております。

ただ、大和川地区とか下早)1地区のように、そこで栽培していただく地元へ行ってかかわりながらということは、まだ2、3校程度であり、また、いろいろ条件が整わないと、なかなかできにくい部分もあるというふうに考えております。その学校に合った形でのつくる、それから料理する、いただくという、その一連の活動を大事にしていきたいと、そう思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

ぜひ栽培の部分も視野に入れて、今後、食育の拡大を図っていただきたい。

公民館体制ですが、先ほど答弁の中で、青海地区の公民館については移行後、公民館長会議で検証していくということでしたが、多分、机上でいろいろ考えて、そして実施していくと、いろいろ齟齬が生じると思うんですね。全く新しいシステムになるわけですから、それを検証しながら、改善していくということをしっかりやってもらいたいと思うんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

田原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 田原秀夫君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長(田原秀夫君)

お答えいたします。

青海地域において今の公民館体制は、自治会業務と一体となった形でございます。25年までの3年間の間に、移行準備期間でございますが、新しい地区公民館を構築するために協議をしましてまいっております。そのためには組織や業務内容や、その業務を行う職員の配置、そういうものを考えながら、これから支館に移行する自治会業務を行うバランス、連携を図りながら組み立ててまいります。

移行後につきましても、当初から完全なものにはならないと思っておりますので、動きながらよりよい公民館活動となるように、充実した活動となるように取り組んでまいります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

じゃあ新幹線開業に向けたまちづくりに移ります。

残念ながらジオパーク戦略プランでは、外からの目線に対する明確なインパクトのあるイメージづくりというのが、これは何回も言ってますが十分ではないので、もう我々から見てても売り込み路線というのが読み取りにくいんですね。糸魚川ジオパークって何って聞かれたら、どう説明しますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長(滝川一夫君)

ジオパークそのものは誘客拡大の1つの手法、ないしはツールであるわけですが、糸魚川としてはジオパークという活用の範囲なり、それをどういうふうに磨いて情報発信するかというのが大きな課題だと思います。特に議員おっしゃるとおり戦略プランは、いわゆる総花的だというふうにも言われております。そこから核になるものを取り出して、やはりそれを少し交通整理しながら実施に移行していけるようなものが、今回プロジェクトとして活動であります。そういうものを実際、もう少し外に見えるような形で展開してまいりたいというふうに思っております。

○議長(古畑浩一君)

違う。課長、ジオパークって尋ねられたら何と答えるかと、一言で言えば何なのかと聞いている。

○交流観光課長(滝川一夫君)

議員おっしゃるとおり、ヒスイ並びに断層を中心とした地域資源の宝庫といいますか、素材の活用、それに向けた糸魚川の新しいまちづくりというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

これもさっきの日本一の子どもを育てる、育むと一緒なんです。やっぱりわかりやすすくないとだめで、だれに聞いても同じでなければならぬ。そこが漠然としていて、ただ思いがいろいろあるから説明すると、いや、これも、あれも、これもという説明になってしまうこと自体が、わかりにくくて、市民にも理解が進まないということになっていくということです。そうすると、取り組みがちょっと滞るということになりかねない。

今、一生懸命取り組んでいて、いろんな意味で効果が出てきてるものを、もっと効果的にするためにという意味で今お話してるんですけどね、だめだというんじゃなくて。今までの取り組みがだめじゃなくて、そののところをもう1回ちょっと引いて整理し直して、糸魚川ジオパークって何っていうところを明確にして、今までの施策をまた進めていくことによって、効果が上がっていくと思うんですよ。市長、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長(米田 徹君)

お答えいたします。

まさに伊藤議員ご指摘の点については、非常にわかりやすくとらえるんですが、また逆に、それが一番難しいところでもあります。非常にジオの多様性、ジオパークの多様性というのが非常に大きくあるわけありまして、だから魅力があって、いろんな人が加わっていく。学者も加わり、また地域振興の関係でも加わっておるところではないかなと思うわけでありまして。それを1つに絞り込んだときに、果たしてどうかなという心配もあるんですが、まさしく今本当に私はご指摘のとおり、大地の公園ぐらいのところまで一緒にできるわけですが、その下へくると、みんなばらばらになってくるんでないかな。その辺が魅力であり、問題でもあるのかなと思うわけでありまして。その辺をどのようにとらえていくか、これは逆に世界ジオパーク、日本ジオパークの中でも、結構同じような論議をされるところでございます。その辺はやはり、もうちょっと詰めなくてはいけない部分でもあるととらえております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

靴下の話があるじゃないですか。いい靴下をつくって売り出しても全然売れなかったと。それを2年後ぐらいに、「通勤快足」という名前をつけて売つたらばか売れしたと、ヒット商品になった。

同じ品物で何も変わってないと、品質も同じです。こういうことだと思うんですね。

だけど、これを見つけ出すことは、なかなか難しいです、市長が言うように。難しいけど、そこに取り組まなかったら、わかりやすくなかなかないところですので、今、そこへ向けての話をされたんで、ぜひそういうふうにしていただきたいと思うんですけど。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長(米田 徹君)

お答えいたします。

まさに切り日方の中においては、そういうことだろうと思うんですが、世界の中のジオパークという中においては、日本は新しい地質を見出していこう、それをまた売り出していこうという形の中ではわかるし、ヨーロッパや中国は古い地層を中心にジオパークという形で出てきとるわけでございますので、それと異質のものとして魅力づくりをしていこうという形では新しい地質、火山とかそういうものが中心になってこようかと思えます。そうなりますと、じゃあ日本全体のジオパークは、全部火山かというのと、そうでないものもあったりもするわけでありまして。非常にそういったところで難しい点ではあるわけですが、そういう今ご指摘の点もまたあるわけでありまして、難しいかもしれませんが、これは何とかまとめていかないかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

導入部分ですからね、僕が言ってるのは。入ってもらったら、こんなすばらしいという話はどれだけでもあるわけですから、入ってもらわなかったら、すばらしさは絶対わからないところだと思うんですね。

さっきの子ども一貫教育のほうは、これは市内の教育の問題ですから内向きの問題ですけど、このジオパークは内向きと外向き、両方要るわけですよ。内向きの市民の理解を促進して市民の取り組み。それから外への情報発信で、非常にわかりやすい形であっていくと、これはぜひまた視点を1つプラスして、取り組んでいただきたい。

それから、次、新幹線、並行在来線等の話になっていきますが、平成13年ごろに整えられた構想に対してという話を、私はさんざんしているんですけど、その後の世の中の移り変わりや先進地の事例をもとに、その構想の中身を見直した例というのはあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長(金子晴彦君)

これも何度か伊藤議員と、ここでお話させていただきました。基本的な構想については見直してはございませんが、個々の中で例えば新幹線駅の下で、これが鉄道。運輸機構、それからJR西の中で、ここをまるまるお借りすることによって、ここについてはジオパークの玄関口として広く利用して、ここを発信にするとか、それから、もう1点は、キハの譲り受けに関しまして、レンガ車庫との組み合わせによって、その辺も含めた新たなといいますか、その当時にはなかったものも、

含めさせていただいたところでございます。

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員の質問中ではありますが、議事の都合上、5時を回るということが予想されます。時間の延長を許可することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

異議なしと認めます。

それでは本会議は、5時を延長しても続けるということに決しました。

それでは伊藤議員、質問を続けてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

きのう田原議員の質問の中にも出てましたが、電線地中化後のアーケードの復旧ですね。それと重複する質問はしませんが、糸魚川市らしいアーケードに柔軟な発想で整えていくと。例えばワークショップのような形で、糸魚川小学校の子どもたちがかかわっていくことによって、また自分たちの考えの中で駅前が整っていくことで、郷土愛も醸成されるというようなことも考えていいんじゃないかなと思うんですけど、どうですか。

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員、発言の最中なんですけど、今、「きのう」の田原議員の質問でとおっしゃいましたよね、「年前中」のと言い直してください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

時間の感覚がおかしくなってすみません。「きのう」と言いましたが、「午前中」の田原議員の質問です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

○商工農林水産課長(金子裕彦君)

お答えいたします。

アーケードのデザイン、設計等につきましては、田原議員にお答えした状況でございますけれども、今ご提案の向きにつきましては、実施主体となります商店街組合の皆様にお伝えをいたしまして、いろんなご意見を聞く中で、より糸魚川にふさわしい形のものができるようにということで、私どもも一緒になって考えていきたいと思いま]

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

時間がないのでちょっと飛ばしていきます。

利便性の高いダイヤ編成、優等列車確保などというところですが、早く並行在来線株式会社を設立したことで、県と会社の責任がかえってあいまいになってというか、様子を見合っているような状態になってしまって、お互いにはっきりものを言わないような気がするんですよ。

朝日町での富山県交通政策局の課長さんのお話は、非常に明快でわかりやすかった。なぜかという方針を明言された、はっきりした。どうも新潟県は、糸魚川市も含めてですが、方針はあっても決まってないことは言葉を濁す、方針すら明言しない。できないかもしれない、これでは全くわからないことになる。ちょっとはっきり方針は言ってほしいんですが、糸魚川、新潟間の優等列車についてどう考えてますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長(金子晴彦君)

これは当市が新幹線の利用、それから並行在をこれから活用していく上で、一番大きな重要なポイントの1つだと。これは絶対といいますか、通していきたい事案の1つだと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

じゃあそれを実現するために、今後戦略というのはありますか。、

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長(金子晴彦君)

これは戦略と言えるかどうかわかりませんが、常々会議の中では、これはぜひ必要で、これがいろんな経営計画の中、それから方向、方針を言う中でのポイントの1つという形の中で、答えを発信しておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

私の考えを言いますと、キーワードはやはり「日本海ライン」ですよ。北陸の中心都市となっている新潟市には国の出先機関がありますので、日本海ラインが重要になるわけですね。西から来たときに、糸魚川で新幹線に乗りかえますね。それと同じように新潟に行くときも、やはり糸魚川が新潟行きのポイントになっていくと。西方面のことを考えたときに、糸魚川はいかに重要かというところが非常に大きなポイントになって、日本海ラインって考えたときにね。このラインが崩れると北陸という単位で考えたときに、今、国の出先機関が新潟にあるために、新潟市に大手さんの北陸支店も多くあります。これが崩れますよ、新潟から金沢へ移って行っちゃう、もう移ってる会社もあります。そういうところを重要視して、やっぱり見込んでいってほしいなと思うんですけど、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

○副市長(本間政一君)

朝日町へ皆さんと一緒に研修に行かれたときに富山県の方が、確かに具体的にいろんなことを話をされました。そこら辺を比べると、やはり新潟県のほうは1年ほど前から準備した割には、方針が

進んでないというのが私も実感でありまして、会社のほうには、そのようなことを話しながら進めております。

ただ、やっぱり糸魚川については、今、お話がありましたように利便性の低下をさせない、あるいは優等列車を持ちたい、あるいはそれらを進めるためには、やはり糸魚川の利点というのが当然出てくるわけですので、そのことを十分踏まえながら取り組まなきゃならんというふうに思っています。

やはり日本海ライン、今言われているように日本海を縦断する鉄道の1つの拠点が、やっぱり糸魚川になるんだろうと思っています。そのことを十分認識しながら、県あるいは並行在来線の会社に今後も話をしていきますし、また議会からも応援を、一体として進めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

わかりました。

新駅設置ですが、これは地元負担がついて回りますよね。これはどう考えてますか、それをも新駅は設置するという覚悟はできてますかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

○副市長(本間政一君)

新駅につきましては、これまで請願方式、その自治体がつくりたいと言えば自治体の負担でということでしたが、先般の県の議会の中で県知事は、県でも応分の負担をする中でこれらを進めようという話が出ました。そのことから応分の負担というのは、県でどれぐらい負担していただけるかということもお話をしましたが、実際に具体的な例が出たら詰めていきたいというような話でしたが、負担率等が出てないわけですが、ある程度の負担はいただけるものというふうに思っています。

それと、地元からも今いろんな意見が出ておりますので、そこら辺は十分聞きながら対応しなきゃならんと思っておりますが、ただ、駅をつくるということは都市計画そのもの、あるいはいろんなことでの影響が出ると思っておりますので、そこら辺は十分踏まえながら詰めていきたいという考えでおります。負担のことについては、今後また十分そこら辺をあわせながら、検討させていただきたい

というふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

私には、もう絶対やるというふうに聞こえたので、よろしくお願いします。

利便性の高いダイヤ編成ということですが、先日、新幹線の所要時間と運賃の試算というのが報道されましたよね。上越は各駅停車と速達列車というのが2段書きになっているんですけど、糸魚川は各駅停車だけの時間しか表示されてなかった。これには意味があるんですか。もうそういうことになってしまったということなのか、それともあらゆる検討の中で、たまたまそれが出てきたということなのか、どうなんでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

○副市長(本間政一君)

鉄道運輸機構の小委員会の中で、それらの試算を出されたということで、先般、新聞発表がありました。具体的には、金沢から以西のほうにつなげていった後に、新幹線そのものがどうなるかということの基本にして、あのような試算が出たわけですが、ただ、やはりあれだけ具体的に出るといことは、根底には金沢までの今の新幹線の形が、これらに沿ってくるんじゃないかというような危機感を持っています。

そのことから県のほうにも、これらのことは十分糸魚川市の置かれている立場、あるいは議会、市を通して、いろんな要望を上げてるわけですので、このことを十分踏まえる中で、今後進めたいということをや要請、連絡をしておりますので、やはりこのことが基本になっていかれては、糸魚川が今まで負担をして、結果とすれば地元の要望等が少なく、ある程度解消しないうちに、お金だけ出したというような形では困るということをおっしゃるので、やはりそこら辺も十分県としても、JRあるいは並行在来線の中で話をする中で、細部はこれからの話ですよということはお聞きをしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

新幹線にしても並行在来線にしても、ダイヤ編成などに関しては、ただ申し入れてるだけではなくて、やはり糸魚川市の独自案を示すということもケースによってあるかもしれませんが、そして交渉していくと。

会社側が、国や県も含めてですが、嫌がるほどの粘り強さがやっぱり必要だと思うんですよ。

厳しい要求に対しては、相応の対応がやっぱりされます。あっさりしてれば、甘く見られますよ。やはり粘り強く、強い交渉をお願いしたいと思いますが、再度ちょっとお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長(米田 徹君)

お答えします。

新聞報道で見る限り、また、我々は今その中でいろいろ情報収集する中においては、これはあくまでも国土交通省が、試案としてつくつたというような言い方をされてるんですが、我々といたしまして、それはもうたたき台みたいな形になるんじゃないかという、やはり危惧をするわけでありまして、そのようなことで我々といたしましては、大変これに対しては心配もしておるわけでございますので。県のほうでは、そういうとらえ方をしてない部分もございます。そういうことで、我々といたしましては、何としましては糸魚川の考え方というのを、どこかでしっかり出していかなくちゃいけないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

強い交渉をお願いします。

交通ネットワークの完成ですが、交通ネットワークの充実は何のためかと。さっき言った防災のこともありますよね、それから産業振興、いろいろあると。要するに都市計画もあって、それをつくると、かなり古いものがそのままずっと生きてると。最近ちょっと見直されましたが、でも、かびの生えた食べ物を捨てるのは計画の見直しじゃなくて、これはただの整理でしかないんですよ。だから交通ネットワークに関して見直しというのは、本当の意味で、いろいろな観点からやっていかなきゃいけないと思うんですけど、どうでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長(金子晴彦君)

今、市で持っております交通ネットワークビジョン、これは平成18年度、19年の3月につくったものでありまして、この当時、私も建設課で若干これに関連をしておりました。

これは短期、中期、長期という中で、その当時はどうしても建設課でしたので、道路網を中心の形で作成しておりましたが、それからもう5年たった中で、まず、短期の見直しの時期もきておりますし、また、当時から新幹線というものは当然意識してはおりましたけど、今度は並行在来線うちの、要するに第三セクターという会社の中では、そういうダイヤも、それから当然、取締役としても、それから会社の株主としても意見を言える立場だと思っておりますので、まず、道路の見直しは、それはそれでももちろんですが、さらに2次交通のそういう公共交通も含めた中で、まず、24年度は短期的な見直しをして、また次につなげていきたいと、そういうふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

ちょっとだけ私見を言うと、交通ネットワークつて国の単位で言うと国力アップなんですよね。やはりそれによって流通形態を整えて国力アップして、国際競争力を高める。それを地方に置きかえて考えれば、おのずとわかってくるわけで、やはり交通がだめだと産業がだめになってきますよね。やはりそこでしっかり、先ほどの新駅設置にも、多分そこでのネットワークの組みかえというのが出てくるだろうと思っておりますので、しっかり取り組んでいただきたいと思います。

それから5点目ですね、市内既存企業支援強化等の話ですが、糸魚川市の就業人口の産業別就業割合というのがありますよね、国勢調査による。これをしっかりと分析した上で産業振興策というのは、庁内で論じられているものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

○商工農林水産課長(金子裕彦君)

お答えいたします。

当然、当市の産業の就業人日の割合というのは、同様の5万人都市に比べてのやっぱり特徴がある。比較的製造業に携わる就業者が多いというような特徴がございます。そういうものは総合計画の策定、あるいは総合計画後期基本計画の策定の中では、そういうことを十分認識をしながら計画の取り組みをいたしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

大分類の産業別就業率でいくと、17年の国勢調査結果ですが、一番多い製造業が20.36%。次いで建設業が16.44%、製造業の大きな部分を占めてる窯業、セメント製造業も建設関連産業です。生コン骨材製造販売、建設資材販売商社など、建設業を取引相手にしてる業種を入れると、直接建設業就業率の倍以上の方々がかかわっているということが言えると思います。これは私が建設業だから言ってるわけじゃないんですよ。ここは誤解のないように、はっきり言っときます。実際に、糸魚川市民の半数近い方々の生活が建設業に依存しているのが、この糸魚川市の実態だということで、ことしの豪雪の中での除雪作業による交通確保などというのも、またその力に依存してる部分はあるわけですね。一般市民の方々が身にしみて感じているはずですよ。

コンクリートから人などと言って、最近、ちょっと言わなくなったようですが、公共事業費を大きく削減してきた。この現実をどうとらえていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長(米田 徹君)

お答えいたします。

よくそれを例にとらえて言われるわけでもございまして、我々は好きで公共事業をやってきたわけでもございませぬ。地域のやはり将来計画や、また、地域の市民生活の中で出てきた要望に対して、我々はずつと計画的、またはその整備をしてきたわけでありませぬ。また現在も市内には数多くの、100を超える各自治区があるわけでもございませぬが、そこから出てくる要望のやはり一番主たるものは道路であったり、または水路であったりしてらるわけでもございませぬ、そういったものをとらえる中、そしてまた我々のこの糸魚川市の地形を見ますと、自然災害の多い地形でもございませぬので、それに対しての手だてもしていかなくちゃいけないという中において、我々は公共事業の必要性を常々申

上げてきてるわけでございますし、それに際しておりますこの活動にいたしましても、かなり下げさせていただいております。そういうような形で、私は公共事業という形の中で、単に財政的な面について、これは減らさないかなんていうことは考えてなくて、今進めてまいっておるわけでございます。

今、皆様方に、これからご審議いただく平成24年度のこの予算にいたしましても、一般会計の中における土木費の占める割合というのも、他の地域に比べては高い位置にあるわけございまして、そういったことで、まだまだ我々のところは社会資本整備がおくれている地域だととらえております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

企業か人かなんていう言い方をすることもありますが、これは違うんですね、企業イコール人なんです。企業というのは人が組み上げているものであって、これを相反するようにとらえて物事をとらえるようでは、大局を論ずることはできないということになります。

市の単費で事業を行うということで限界がある。国、県の補助事業を引っ張ってくるには、これは熱意が必要です。市の職員が仕事を生み出す力を持っていないと、公共事業も引っ張ってこれない。これはどう考えてますかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長(米田 徹君)

お答えいたします。

まさにそのとおりだと思っております。熱意と、やはり情報の収集力だろうと思うわけでありまして、熱意だけでもだめでございますが、やはり県、国との情報ネットをしっかり持ってなくちゃいけないわけでございますし、また、まとめたときにどのようなルートで、今、国なり県に出向いて、この事業の決定をいただくかという努力は、本当にやらなくちゃいけないことだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

日本一の子育て環境で才能の豊かな人を育てて、糸魚川市でまた定着してもらい、また豊かな郷土をつかって、子孫に残していくというようなサイクルを構築していただきたいと思っております。

よろしくをお願いします。

終わります。